

社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣 良次

2019. 5
No.309

“運”について

「何事も運が向かなかつたら、どうにもならない」

「人生は運だ」

「運というのは半分は持つて生まれてくるけれど、あとの半分は自分でつくるものだ」

よくこのように言われますが、運をつかむのは、やはり自分だと私は思っています。いつもボ―ットとして何も考えていない人に、運をつかめません。

運をつかめる人は、いつも「ああしたい」、「こうしたい」、「こうなりたい」と、自分の志や夢、希望、願望などを描いています。常に温めているから具体的になります。だから、そのような話がやってきた時には、すぐに捕まえることが

できます。それが“運がいい”ということです。

「運をつかむ」には「準備力」がいるのです。何も考えていない人には運はやってきませんし、運はつかめません。“運”は皆さん全員に平等に公平にやってきます。それをつかめるかどうかは、自身の行動や考え方にかかっているのです。

「流れ星が見えた時にお願いをすれば、夢が叶う」と言われています。これも運をつかむと同じことです。常に具体的な夢、志、目標、「あなりたい」、「こうなりたい」ということを、常に真剣に考えていけば、「流れ星」がいつ出てきてもお願いできます。

つまり、それだけ真剣に考え抜いているかどうかで成功が決まるし、どんな問題にぶつかろうとも向かつていける“力”を発揮できるようになるということです。

さあ、運をつかみましょう！

日本はガラパゴス

―事が起こらないと頑張らない日本人―

私の友人が、ドバイから帰国した人に聞いた話を教えてくれました。その人の話によると、ドバイは緑がいっぱい、空には“空飛ぶ白バイ”

が交通の取り締まりをやっているというのです。調べたところ、確かに大きなドローンに人間が乗っている映像を見つけ出しました。そんな馬鹿な、と思っていました。が事実なのです。

またアメリカのテキサスでも、ウーバー社(Uber)が2020年に「空飛ぶタクシー」の試験飛行をすると発表したようです。100年に一度の大変革期に、世界各国で実証実験が行われ、2020年以降の実用化に向けて必死に取り組んでいます。

では、日本はどうでしょう。規制、規制、規制で「空飛ぶ白バイ、空飛ぶタクシー」どころか、「自動運転」ですら議論ばかりで、一向に進展していません。あんなつたらどうする、こうなつたらどうする、誰が責任を取る……などと進まない議論ばかりしているうちに、隣国や世界から遅れをとってしまいます。

話は変わりますが、中国では「キャッシュレス化」が進み、スマホ決済が当たり前になっています。街角の屋台もスマホ決済です。最近では「顔認証で決済」が始まったようです。日本はどうですか。“ガラパゴス”ではないでしょうか。アメリカに未だに「おんぶにだっこ」状態では、いつの間にか取り残されてしまいます。それに我々は気

づいていないような気がします。もつと海外に目を向けスピードを上げること、どんどん規制を緩和し、世界一の技術力を発揮できる環境を整えて頑張らないと、本当の絶滅危惧種の本になつてしまいます。

電気自動車は2030～2040年ころからシェアが増えてくると予測していましたが、我々のお客様や新聞の動向を見ると、10年くらい早まりそうな予感がします。イナテックの

良い所(加工点技術)をさらに伸ばして、来るべき電動化に向けて生き残りをかけます。常に高い志を持っていないと運はつかめません。さあ、皆で加工点にこだわり、生き残りましょう！
おもしろい時代になります。

七〇

福不可徴。養喜神、以爲召福之本而已。禍不可避。去殺機、以爲遠禍之方而已。

幸福はこちらから求めて求められるものではない。ただ楽しい気持を養い育て、幸福を招き寄せる用意をする外はない。災禍はこちらで避けて避けられるものではない。ただ殺気だつ心を取り去って、災禍に遠ざかる工夫をする外はない。

